

議 会

定例会

平成26年第3回定例会は9月10日に招集され、提出された案件を審議し、閉会いたしました。

委員会報告

総務産業常任委員会

■調査期日 7月14日(月)

□調査事項

①消防行政について

□調査結果

①指摘事項なし

■調査期日 8月12日(火)

□調査事項

①建設工事の施工状況について

②ひまわりの里の開花状況について

□調査結果

①②指摘事項なし

同意

○教育委員会委員の任命について

深瀬 アユミ 氏 (新)

○公平委員会委員の選任について

川瀬 崇 氏 (再)

○固定資産評価審査委員会委員の選任について

藤井 啓二 氏 (再)

原案可決

○北海道市町村職員退職手当組合規約の変更に關する協議について

○平成26年度北竜町一般会計補正予算(第2号)について

・既定予算額に12,881千円を追加し、総額2,854,844千円とする。

○平成26年度北竜町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)について

・既定予算額に2,284千円を追加し、総額353,448千円とする。

○平成26年度北竜町特別養護老人ホーム事業特別会計補正予算(第1号)について

・既定予算額に401千円を追加し、総額393,401千円とする。

○平成26年度北竜町農業集落排水事業及び個別排水処理事業特別会計補正予算(第1号)について

・既定予算額に305千円を追加し、総額121,305千円とする。

○平成26年度北竜町簡易水道事業会計補正予算(第1号)について

・収益的収入で1,672千円を増額し、総額60,950千円とする。
・収益的支出で1,672千円を増額し、総額72,672千円とする。

認定

○平成25年度北竜町一般会計外6会計(国保・診療所・後期高齢・介護・特老・集落排水)の歳入歳出決算認定と平成25年度北竜町簡易水道事業会計決算認定について

・決算審査特別委員会(澤田正人委員長)を設置して、その審査を付託、休会中に審査

を行い、認定されました。

意見書の提出について

次の意見書を可決し、関係省庁に送付いたしました。

○林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書について

○電気料金再値上げの認可をしないことを求める意見書について

一般質問

3名の議員から4件の一般質問がありました。質問内容については、11月号に掲載予定です。

中央要望

北空知議会議長連絡協議会

中央要望に参加

8月6日から8日にかけて北空知議会議長連絡協議会議員による中央要望行動に1市4町より議員10名、事務局2名の総勢12名で衆参両議員8名に要望書を提出した。要望事項は

○農業農村整備事業の予算確保について

○T P P協定交渉について

○地域医療体制の充実確保について

である。更に厚生労働省、農林水産省においてそれぞれ意見交換を行った。

厚生労働省では厚生労働審議官原勝則氏、さらに渡辺衆議院議員にも同席を頂いて医師の確保、地域包括ケアについて説明を頂いた。



国会議事堂の前で参加議員全員で

農林水産省では農地振興局整備部農地資源課、設計課、国際経済課の5名の職員より平成26年の農業予算、圃場整備等の農家負担軽減策、T P Pの現在の交渉内容について説明を頂いた。

それぞれ懇談時間内で多くの意見要望が出された。

(小松)

議員研修

議会道内政務調査

8月に渡島管内八雲町、後志管内ニセコ町において議会政務調査を行った。

八雲町では、北海道新幹線札幌延伸の概要について、調査した。

北海道新幹線は新青森・新函館北斗間を平成27年度末までに先行開業となる。新函館北斗・札幌間は平成47年度までの開業が予定されている。八雲町は、新函館北斗から2番目の停車駅となり、整備計画の最中にある。また、整備



八雲町にて

計画から一段下がるが札幌・旭川間も基本計画に追加されている。

多面的波及効果の大きい整備新幹線計画、自治体・議会の動向を具に聞くことが出来た。



ニセコ町にて

ニセコ町では、町づくり・P R・観光戦略について、調査した。

冬の観光では今、最も注目を集める町である。特に海外からの観光客、町内移住、不動産等の投資の拡大など眼を見張るものがある。ニセコ町の観光・P R戦略の具体的手法と考え方。反して町づくりを念頭に置いた規制等について調査した。

なお、今回の政務調査には町長部局の職員2名が同行した。

(小坂)

議員コラム

今年は大半年の気象予報士がエルニーニョ現象により冷夏になると予想したが、見事に外れて大変暑い夏となった。おかげで米は順調に生育し4年連続の豊作となりそうである。豊作はありがたいが、さすがに国内の米の在庫が過剰になってきた。一昔前は国内で900万トンの米が消費されたが今は780万トン程度で、米の消費量が激減し価格も安くなっている。

そんな厳しい環境の中ではあるが、北竜の「ゆめびりか」「おぼろづき」「ななつぼし」は年々食味が良くなって来たように思う。以前は質より量といった意識が強かったが、今は量より質の考え方が定着し、米生産農家の良いものを作るという意識の向上に心から敬意を表したい。

先頃の衆院予算委員会では安倍首相がこんな認識を示した。

「米の生産調整で高米価が維持され、消費者は高い米を食べさせられている」という経済界の批判に反論した格好だ。ある議員から「日本の一般的な米の価格は他の食料品と比べて高いか、安いか」と問われたのに答えた。安倍首相は小売価格が5キロ2,000円の米であれば「1人1日当たりの平均的な支出額は62円、茶碗1杯当たり26円になる」と計算し「26円であるなおいしいものを食べられる」と強調。国産米の価格についても「極めて質の高い、安全でおいしいものを食べている上において大変リーズナブル(安い)な値段だ」と語った。

安倍首相、素晴らしい認識を持っておられる。その調子でしっかりと日本の米を守ってくださいヨ!

(小松)